



大風合戦結果 6月2日~6日

優勝は謙信組

天候に恵まれ、たくさんの人出でにぎわった今年の風合戦。特に土曜、日曜は北風も吹いて絶好の風合戦日和となりました。また、市制施行30周年を記念して設けられた舟による観覧席も多くの観光客でにぎわっていました。

今年の合戦結果は次のとおりです。

【大風の部】 優勝=謙信組 準優勝=桃太郎組 3位=五郎組 4位=大高組 5位=役者組

【同技能の部】 1位=北若組 2位=謙信組 3位=桜蝶組、桃太郎組

【巻風の部】 優勝=山崎ヒュム管組 準優勝=七生会組 3位=木川組 4位=さんじ会組 5位=二六童会組 6位=吉田建設工業組

【同技能の部】 1位=山崎ヒュム管組 2位=七生会組、さんじ会組 3位=木川組 4位=わらじ会組、永井建設工業組 5位=パール組 6位=協栄建設組 7位=二六童会組 8位=菅蒲会組 9位=吉田建設工業組 10位=一心会組

6月1日 子ども大風合戦結果



6月1日、子ども大風合戦が行われました。あいにく風に恵まれず、合戦は1回しか行われませんでした。子どもたちは元気いっぱい。優勝は中蝶組(味方村) 2位は五郎組(中央通)でした。

自然環境や史跡、行事、特産品などについて、自慢できるものと掘り起こすものに分けて記述してもらいました。

〔自慢できるもの〕

- 田園地帯 ● 信濃川 ● ナシ、モモ畑 ● 白根庭園 ● 大風合戦 ● 神楽舞 ● 新飯田祭り ● 白根甚句 ● サツキ ● 果物 ● 米 ● 仏壇 ● 野菜 ● 麩 ● 笹だんご ● 風 ● 白根紋り ● のつぺ など

観光資源

白根市で他市町村に自慢できるもの、市発展のために掘り起こして活用できるものは

〔掘り起こすもの〕

- 川(信濃川、信濃川堤防、河川敷、中ノ口川) ● 田園風景 ● 神楽舞 ● サツキなど園芸用植物 ● 洋ナシなどの果樹 ● コシヒカリ ● 仏壇 ● 農産物の加工品

自慢できるもの、掘り起こすものとして挙げてもらいましたが、重複するものも多かったです。無回答の人もかなりいました。掘り起こすものという意味は、現在ある資源で活用されていないものとして、捕らえてもらいました。

この中で目立つものは川、特に信濃川でしょう。多くの人が自慢できるものと掘り起こすもの両方に上げています。現在は大風合戦のとき以外は「川」を取り込んで催しはなく、是非とも今後考えていきたい資源の一つです。

自由記述で回答してもらいました。主なものは次のとおりです。

- ① レクリエーション施設、レジャー施設、観光施設等の整備(27人)
- ② 観光よりもまず市民のための生活環境整備、まちづくりを(22人)
- ③ PRを強化する(21人)
- ④ 市民全体で楽しめる祭りやイベントを(13人)
- ⑤ 川や河川敷を生かす(13人)
- ⑥ 大風合戦、果樹観光に力を入れるべき(11人)
- ⑦ 物産館的な施設を(10人)
- ⑧ 周辺観光地との連携を(9人)

観光のあり方

本市の観光はどのようあるべきだと思いますか

⑨ 白根しかないもの、他の地域に負けない何かを(7人)

ここで最も意見が多かったのは施設整備です。生活環境の整備を求める声と合わせて、人を案内する場とともに、市民の憩いの場となる施設を市内に求めているといえます。

農業を観光に生かすためのアイデアを求めた6ページの質問と重複する答えが多く、本市の観光における農業の位置付けが最確認されたようです。

あふれる「まち」となることが基本なのです。

アンケートの結果、観光は白根ではできない、白根には観光資源がないと考えている人が多いことが判明しました。しかし、観光地へ行くことばかりではなく、観光を行うことよってまちづくりを行う、市民自身が主役となる観光の形もあるのです。

この調査結果を基に、市と商工会では関係機関団体と協議しながら、観光基本計画を策定することとしています。

まとめ

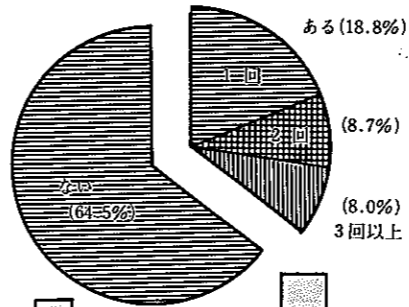
観光とは結局のところよその人に自分の住んでいる所を見てもらうことです。そのためには施設やイベントは必要なことかもしれませんが、施設のあり地域自体や施設を運営する人自身に魅力がなければ、人を引きつけることはできません。

これを農業に例えれば、「土づくり」と同じことです。土が悪ければ良い作物はできません。観光の場合は「土」が「地域そのもの」または「地域住民」です。観光を行う場合、まずその地域が「魅力

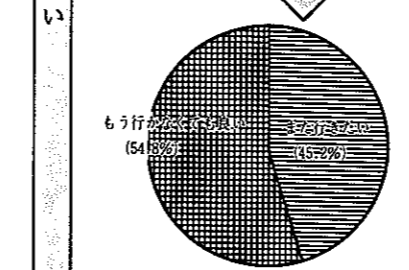


観光果樹園について

市内の観光果樹園を利用したことがありますか

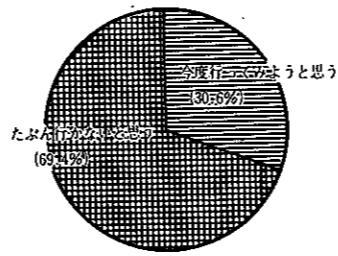


市内の観光果樹園を利用したことがある人は三六%で、その中で「また行きたい」という人は四五%でした。また、行ったことがない人で、今度行ってみようと思っている人は三割しかいません。白根市内の人は、自宅で栽培し



ているとか、近所や親戚の人からもらうといった場合が多く、わざわざ観光果樹園に行かなくてもよいと思われまます。

また、観光果樹園に行ったことのある人で、「もう行かなくてもよい」という人の理由の主なものは次のとおりです。



は次のとおりです。

- 値段が高い(13人)
- 催し物などがなく、おもしろみに欠ける(8人)
- 身近で安く手に入る(7人)
- 小さな子どもがいけないので、行く機会がない(6人)

市内の人は、ふだんでも新鮮な果物を安く手に入れることができるので、現在のようなもぎ取り主体の観光果樹園の対象となるのは、完全に市外の人であると考えられます。

農業を観光に生かす

本市の観光には、農業が重要な位置を占めると考えられます。農業を生かしながら観光に結び付けていくアイデアを。

複数回答で十人以上の回答が得られたものは次のとおりです。

- 体験農業、都市住民との交流を目的とした、体験学習農園を作る(34人)
- 観光果樹園の多様化、大規模化、レクリエーション施設やレストラン等のサービス施設の整備(24人)
- 農産物の産直システムを確立する。農産物や加工品などを直売する施設を配置する(22人)
- PRの強化(16人)
- 特産品開発を行う(15人)
- 休耕田の活用を考える(13人)

上位に上がってきたものは一般



的に考えられるもの、現在各地で試みられているものです。白根で現在行っているものは、もぎ取り主体の観光果樹園。それも個人経営が主体のため、規模は小さく、アピール性も弱いと言えます。

▲美しい景観のチューリップ畑 観光に生かしたい資源の一つ

この調査結果を基に、市と商工会では関係機関団体と協議しながら、観光基本計画を策定することとしています。